

決 算 特 別 委 員 会 報 告 会

議 長	事務局長	次 長	書 記
			

会 議 日 時	令和3年10月28日（木） 午後1時15分 ～ 午後4時50分			
会 議 場 所	○議員控室 ④委員会室 ○議会図書室 ○その他（ ）			
出 席 者 数	委員 名のうち出席者 名			
出 席 委 員	委 員 長	緒方 正綱	委 員	武田 秀義
	副委員長	古谷 幹夫	委 員	中屋 康
	委 員	榎野 章	委 員	村井 眞菜
	委 員	林 健三		
欠 席 委 員				
事 務 局	事務局長	長谷部 卓也		
説 明 者	大正診療所	事 務 長 國澤豪人	高齢者支援課	課 長 三本明子
		総括主幹 浜田早苗		副 課 長 福留宏知
	十和診療所	総括主幹 竹内由美	地域包括支援センター	所 長 池田康人
	健康福祉課	課 長 長森伸一		保 健 師 土居有希
		副 課 長 輝平 孝	特別養護老人ホーム窪川荘	事 務 長 三宮佳子
		〃 小松 充		主 幹 川村美紀
		総括技幹 森 太亮	特別養護老人ホーム四万十荘	施 設 長 久保田公平
		係 長 片岡真由子		主 査 川村裕之
		主 幹 津野寛子		
傍 聴 者				
付 議 事 件	1. 決算特別委員会打合せ			
	2. 令和2年度四万十町各会計歳入歳出決算認定審査			
	1. 大正・十和診療所 2. 健康福祉課 3. 高齢者支援課・地域包括支援センター			
	4. 特別養護老人ホーム窪川荘・四万十荘			
審 査 ・ 調 査	決算書、成果説明書を基に審査を行った。			
	1. 大正・十和診療所（13：15～13：40）			
	・大正診療所の外来診療収入減の内訳は。			
	⇒非常事態宣言下における受診控えが要因と考える。			
	・大正診療所一部負担金の収入未済が令和元年度より増えた要因は。			
	⇒大きな額は入院費用のもの。督促はしている。			
	・大正・十和診療所の職員体制について、人員は足りているか、休暇の確保は。			

	⇒令和2年度はコロナワクチン接種の準備もあり、余裕のない状況。ただし、収支のバランスを考えると、単純に職員を増やせばいいとはならないので職員の理解を求めるしかない状況。休暇もかつかつではあるが、取れている。
	・今後の人員体制をどう考えるか。
	⇒退職する看護師については新規採用で補填して、今後も現体制を維持したい。
	2. 健康福祉課（13：45～15：20）
	・第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画策定事業 当初予算からの減額理由は。
	⇒当初予算は見積り額で計上したため。
	・新型コロナワクチン接種体制整備事業 コールセンター運営開設準備業務委託料の委託先は。接種証明書の発行はどうか。
	⇒受託者は名鉄観光高知支店。証明書は現在お返ししている2回の接種済証が証明書になるが、紛失されている場合、申請があれば発行する。
	・子育て世代包括支援センター開設事業 体制は十分か。プライベートは確保されているか。また、今後の見通しは。
	⇒執務室の隣にあるが、話し声も聞こえないようになっている。今後も周知を続けながら継続したい。
	・あったかふれあいセンター事業 窪川、大正地域は子どもの利用がないが、十和地域では子供の見守りの部分も担っている。予算配分を増やすことはないか。
	⇒3年間のプロポーザル方式で予算を配分している。来年度から同じくプロポーザル方式により選定を行う。
	◎健康ステーション事業
	・四万十町の健康課題のデータ分析の結果は。
	⇒概要をホームページにアップする予定である。
	・長期計画の中で、利用者数も停滞気味である要因と打開策は。
	⇒利用者数は伸びており、停滞気味とは捉えていない。周知を継続したい。
	・組織や事業所、グループへ活用を働きかけるべきではないか。
	⇒声かけはしていきたいが、あくまで自主的に始めることが継続にもつながるので、トップダウンで強引に進めることがないよう理解を求めたい。
	・チャレンジ90の取組があり身体の変化が見える形で示せるデータとして活用できる。医療費削減、要介護状態予防、健康寿命の延伸の観点からも、多くの利用者の参加を募るべきであるが、目先の費用対効果より長期の目標を持って予算化

	をすべきである。考え方を聞く。		
	⇒スピードを上げて取り組むように執行部にも進言する。		
	3. 高齢者支援課（15：30～15：55）		
	・ 包括的支援事業・任意事業 成果説明書内の金額の計と決算額の違いは何か。		
	⇒成果説明書には人件費等の総務費を含んでいない為。		
	・ 高齢者等外出支援事業 利用率は年々上がっているか。		
	⇒利用率は40%代後半で推移している。		
	・ 保険給付費の介護予防サービス等諸費で発生している不用額の原因について。		
	⇒ヘルパーで辞める人が増えて、訪問介護事態の利用が減ったことと、新型コロナウイルス感染症の影響で利用控えが発生したため。		
	4. 特別養護老人ホーム窪川荘・四万十荘（16：15～16：50）		
	・ 両荘ともサービス収入に未済額があるが、状況を聞く。		
	⇒本年度半数は収納しており。今年度中には収納する予定。		
	・ 高幡西部特別養護老人ホーム組合決算剰余金を財政調整基金に同額積み立てて		
	いる。今後の使途の考えは。		
	⇒単年度収支は赤字なので、赤字補填になると考える。		
	・ 人手不足の対応について聞く。		
	⇒計画年休もとれない状況で、1人休むと他の職員への負担が大きくなる。両施設とも最低1人は職員を増やしてもらいたい。		
	報 告 日	令和3年11月22日（月）	委員長署名
			緒方 正綱 